

2025共通テストに関する検討状況 まとめ

2022/12/9

2022年11月9日に大学入試センターから「令和7年度大学入学者選抜に係る大学入学共通テストに関する検討状況について」が公表されました。ここでは、その内容（問題作成の方向性、実施方法、時間割、経過措置、得点調整などの検討状況）をまとめました。

【参考資料】

「令和7年度以降の試験に向けた検討について」(2022.11.9、大学入試センター)

https://www.dnc.ac.jp/kyotsu/shiken_jouhou/r7ikou/



CONTENTS

<u>スライド番号</u>	<u>タイトル</u>
2	各情報の位置づけ ー弊社まとめー
3～8	教科共通の問題作成方針の検討の方向性のポイント
9～14	試験時間割(イメージ)／出題教科・科目の出題方法等(予告) 地歴公民の2出題科目を選択する際の注意点 ー弊社まとめー 経過措置科目の出題方法等(予告)／「情報」の経過措置関係 得点調整
15～23	出題教科・科目の問題作成方針に関する検討の方向性
24	2025共通テストのおもなポイント ー弊社まとめー
25	教材のご紹介

「2025共通テストに関する検討状況まとめ」
本記事はラーンスWEBサイトでもご覧いただけます。
<https://le-s.jp/lti5>



「2025年共通テスト 実施大綱の予告・補遺まとめ」
以前に公表されたまとめはこちらでご覧いただけます。
<https://le-s.jp/nrco>



2021共通テストでは、「問題作成の方向性」→（試行調査2回）→「実施大綱」→「出題方法および問題作成方針」と段階的に情報が公表されました。2025共通テストでは、共通テストに向けた検討や準備に資するよう、それぞれの段階の「予告」や「検討の方向性」などが示され、非常に丁寧な情報発信がされています。

2021共通テスト（最初の共通テスト）の公表	2025共通テスト（新課程の共通テスト）の公表
<p>「共通テストにおける問題作成の方向性」 （2018.6.18、大学入試センター）</p> <p>共通テストの目的を踏まえた問題作成の基本的な考え方です。ここで示されたことは2025共通テストでも通底になります。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「実施大綱の予告（補遺）」（2021.9.29、文部科学省） ・「出題方法の予告」（2022.11.9、大学入試センター） ・「問題作成方針の検討の方向性」（2022.11.9、大学入試センター）
<p>「試行調査」（1回目）…「問題作成の方向性」を最大限重視した出題。</p> <p>「試行調査」（2回目）…「問題作成の方向性」と、選抜試験としてふさわしい難易度や識別力とを両立させる観点から、平均正答率を5割程度として実施し、問題作成方針や出題方法の決定に必要な分析・検証を行う。</p>	<p>「サンプル問題」…新たな試験科目の問題について、具体的なイメージを共有するために作成・公表されたもの。新学習指導要領に基づいて作成。教科書検定中に作成されたため教科書と照合したものではない、問題構成は未確定など、今後、適切な出題について引き続き検討。</p> <p>「試作問題」…令和7年度試験の問題作成に向けて、試作問題を基にしつつ、大学生を模擬受験者としたモニター調査を参考としたり、様々な機会を通して高校関係者の意見を伺うなどして、問題の内容、分量、程度等に留意した問題となるようにする（情報I）。</p> <p>（以下は予定です）</p>
<p>「令和3年度共通テスト実施大綱」 （2019.6.6、文部科学省）</p> <p>共通テストの実施方針、実施期日等が公表されました。</p>	<p>「令和7年度共通テスト実施大綱」 （2023年6月頃、文部科学省）</p> <p>現行課程における共通テストの実施方針は廃止され、予告した出題教科・科目等を含む試験の実施方針、実施期日等が示されます。</p>
<p>「令和3年度共通テストの出題方法および問題作成方針」 （2019.6.7、大学入試センター）</p> <p>出題教科・科目、出題範囲、過年度生用の別問題の有無、科目選択の方法、試験時間、配点などが決定し公表されました。</p>	<p>「令和7年度共通テストの出題方法および問題作成方針」 （2023年6月頃、大学入試センター）</p>
<p>「令和3年度大学入学者選抜実施要項」 （2020.6.19、文部科学省）</p>	<p>「令和7年度大学入学者選抜実施要項」 （2024年6月頃、文部科学省）</p>
<p>「令和3年度共通テスト実施要項」 （2020.6.30、大学入試センター）</p> <p>時間割、試験場、出願手続、検定料などが決定し公表されました。</p>	<p>「令和7年度共通テスト実施要項」 （2024年6月頃、大学入試センター）</p>
<p>令和3年度共通テスト実施 （第1日程2021.1.16・17、第2日程2021.1.30・31）</p>	<p>令和7年度共通テスト実施</p>

教科共通の問題作成方針の検討の方向性のポイント

[令和7年度以降の試験に向けた検討について | 大学入試センター \(dnc.ac.jp\)](#) (2022.11.9、大学入試センター)

1. 試験の継続性及び高大接続改革の趣旨を踏まえ、これまでの大学入学共通テストの問題作成方針の考え方を引き続き重視し、かつ、その趣旨がより明確になるようにする。その上で、新しい高等学校学習指導要領※と、これまでの大学入学共通テストの実施状況を踏まえた方針とする。(※ 平成30年3月告示、令和4年度高等学校入学者から年次進行で適用。以下「新学習指導要領」という。)

2. 大学入学志願者を対象に、高等学校の段階における基礎的な学習の達成の程度を判定し、大学教育を受けるために必要な能力について把握するという目的の下、各大学が実施する試験等との組合せにより、大学教育を受けるためにふさわしい能力・意欲・適性等を多面的・総合的に評価・判定することに資するよう、以下を基本的な考え方とする。

(1) 大学入学志願者が高等学校教育の成果として身に付けた、知識・技能や思考力・判断力・表現力等を問う問題作成

大学で学修するために共通して必要となる、高等学校の段階において身に付けた基礎的な力を問う問題を作成する。

特に、新学習指導要領において、「主体的・対話的で深い学び」を通して育成することとされている、深い理解を伴った知識の質を問う問題や、知識や技能を活用し思考力・判断力・表現力等を発揮して解くことが求められる問題を重視する。その際、言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力等を、教科横断的に育成することとされていることについても留意する。

(2) 各教科・科目の特質に応じた学習の過程を重視した問題作成

(1)に示した知識・技能や思考力・判断力・表現力等を適切に評価できるよう、出題科目の特質に応じた学習の過程を重視し、問題の構成や場面設定等を工夫する。

例えば、社会や日常の中から課題を発見し解決方法を構想する場面、資料やデータ等を基に考察する場面、考察したことを整理して表現しようとする場面などを設定することによって、探究的に学んだり協働的に課題に取り組んだりする過程を、問題作成に効果的に取り入れる。

(3) 多様な受験者の学力を適切に評価する試験問題の作成

(2)に示す問題作成の工夫を重視した上で、多様な受験者が十分に力を発揮し、(1)に示す知識・技能や思考力・判断力・表現力等を適切に評価できる問題となるよう、構成や内容、分量、表現等に配慮する。

その際、これまで良質な問題作成を行う中で蓄積した知見や、試験問題の評価・分析の結果を問題作成に生かすようにする。

〈参考〉これまでの共通テストの問題作成における基本的な考え方

「『大学入学共通テスト』における問題作成の方向性等」(2018.6.18、大学入試センター)

大学入試センター試験における問題評価・改善の蓄積を生かしつつ、共通テストで問いたい力を明確にした問題作成

これまで問題の評価・改善を重ねてきた大学入試センター試験における良問の蓄積を受け継ぎつつ、高等学校教育を通じて大学教育の入口段階までに**どのような力を身に付けていることを求めるのかをより明確にしながら問題を作成する。**

高等学校教育の成果として身に付けた、大学教育の基礎力となる知識・技能や思考力、判断力、表現力等を問う問題作成

平成21年告示高等学校学習指導要領(以下「高等学校学習指導要領」という。)において育成することを目指す資質・能力を踏まえ、**知識の理解の質を問う問題や、思考力、判断力、表現力等を発揮して解くことが求められる問題を重視する。**また、問題作成のねらいとして問いたい力が、高等学校教育の指導のねらいとする力や大学教育の入口段階で共通に求められる力を踏まえたものとなるよう、**出題教科・科目において問いたい思考力、判断力、表現力等を明確にした上で問題を作成する。**

「どのように学ぶか」を踏まえた問題の場面設定

高等学校における「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善のメッセージ性も考慮し、**授業において生徒が学習する場面や、社会生活や日常生活の中から課題を発見し解決方法を構想する場面、資料やデータ等を基に考察する場面など、学習の過程を意識した問題の場面設定を重視する。**

問題の中では、教科書等で扱われていない**初見の資料**等が扱われることもありますが、問われているのはあくまで、高校等における通常の授業を通じて身に付けた知識の理解や思考力等です。初見の資料等は、**新たな場面でもそれらの力が発揮できるかどうかを問うための題材として用いるもの**であり、**そうした資料等の内容自体が知識として問われるわけではない**ことに留意してください。

教科共通の問題作成方針の検討の方向性のポイント

[令和7年度以降の試験に向けた検討について|大学入試センター \(dnc.ac.jp\)](#) (2022.11.9、大学入試センター)

- 従来の方針を基本としつつ、新学習指導要領を踏まえ、趣旨をより明確にする。
 - ・ 新学習指導要領で示している知識の質、思考力・判断力・表現力等を重視するとともに、教科横断的に育成する言語能力、情報活用能力等にも留意する。
 - ・ 各教科の知識・技能や思考力・判断力・表現力等を評価するため、各教科・科目の特質に応じた学習の過程を重視し、問題の構成や場面設定の工夫を重視する。
 - ・ 出題の工夫を一層重視しつつ、多様な受験者が十分に力を発揮できるよう、構成や内容、分量、表現等に配慮する。
- 高校教育や大学教育が変わろうとしていることを踏まえ、共通テストも不断の改善を図る。
- 共通テストは、学習指導要領に基づく学習を重ねていけば対応できる問題を目指すものであり、そのことの周知を含め、広く情報発信を行う。

教科共通の問題作成方針の検討の方向性のポイント

[令和7年度以降の試験に向けた検討について|大学入試センター \(dnc.ac.jp\)](#) (2022.11.9、大学入試センター)

国語

言葉による記録、要約、説明、論述、話し合い等の言語活動を重視し、多様な資質・能力を問うことができるよう、**大問を1つ追加**。配点は近代以降の文章が3問110点、古典が2問90点(古文・漢文各45点)。**試験時間(90分)**との関係に留意しつつ、それぞれの題材の意義や特質を一層生かした出題となるよう工夫する。

試作問題では、新たな大問の例として、複数の文章や図、グラフを基に、レポートの内容や構成を考える設定の問題を2例紹介。

地理歴史、公民

試作問題では、必修科目を組み合わせた出題科目(『地理総合、歴史総合、公共』)と、必修科目を学習した後に履修する選択科目を組み合わせた出題科目(『地理総合、地理探究』、『歴史総合、日本史探究』、『歴史総合、世界史探究』、『公共、倫理』、『公共、政治・経済』)の構成や内容を紹介。

受験者は、上記出題科目の6科目のうちから最大2科目を選択し、解答する。ただし、2科目を選択する場合、選択不可の組合せがある。

教科共通の問題作成方針の検討の方向性のポイント

[令和7年度以降の試験に向けた検討について | 大学入試センター \(dnc.ac.jp\)](#) (2022.11.9、大学入試センター)

数 学

数学①・②ともに試験時間が70分となる。試作問題では、『数学Ⅰ、数学A』の「データの分析（外れ値、仮説検定の考え方など）」や「場合の数と確率（期待値など）」、『数学Ⅱ、数学B、数学C』の「統計的な推測（仮説検定の方法など）」や「平面上の曲線と複素数平面」など、新たに出題範囲となる内容の問題例と、それを含めた場合の全体の問題構成のイメージを紹介。

理 科

従来の「理科①」、「理科②」を一つの試験時間帯の中で「理科」として実施する。なお、選択できる科目の数や形式については従来どおりである。旧教育課程履修者等のための経過措置科目は設定しないが、必要に応じて、旧教育課程履修者等が選択可能な選択問題を出題する場合がある。

教科共通の問題作成方針の検討の方向性のポイント

[令和7年度以降の試験に向けた検討について|大学入試センター \(dnc.ac.jp\)](https://dnc.ac.jp) (2022.11.9、大学入試センター)

英語

出題形式は「リーディング」形式と「リスニング」形式とし（原則、両方を受験）、文字と音声の特性を生かして、「聞いた情報を整理して自分の考えを話す」、「自分の考えを書くために必要な情報を読む」といった、統合的な言語活動で育てた**総合的な英語力を測ることを重視**。試作問題では、賛否の意見を書くために複数の資料を読んで主張をまとめ論拠を整理する場面、書いた英文を校正・再編集する場面（以上リーディング）、講義の概要や要点を確認し考えを述べ合う場面（リスニング）を扱った問題の例を紹介。

情報

『情報Ⅰ』の試作問題は、新学習指導要領が示す内容を基に、高等学校で育成される資質・能力をバランスよく問う形となるよう作成。経過措置科目の『旧情報（仮）』は、「社会と情報」及び「情報の科学」の共通問題と、それぞれ固有の内容に対応した選択問題から構成する試作問題を紹介。

試験時間割 (イメージ)

理科を一つの試験時間帯、情報を一つの試験時間帯で実施する場合の試験時間割の一つのイメージ。実際の試験時間割は、現在、大学入試センターにおいて検討中。

2025共通テスト 試験時間割 (イメージ)

1日目		2日目	
2科目受験 9:30~11:40 1科目受験 10:40~11:40	地理歴史 公民	2科目受験 9:30~11:40 1科目受験 10:40~11:40	理科
13:00~14:30	国語	13:00~14:10	数学①
15:20~16:40	外国語	15:00~16:10	数学②
17:20~18:20	リスニング	17:00~18:00	情報
受験上の配慮における試験時間延長(1.5倍)の試験終了時刻 1日目:19:50		2日目:19:25	

[令和7年度以降の試験に向けた検討について | 大学入試センター \(dnc.ac.jp\)](https://dnc.ac.jp) (2022.11.9、大学入試センター)

出題教科・科目の出題方法等（予告）

「令和7年度大学入学選抜に係る大学入学共通テストの出題教科・科目の出題方法等の予告」（2022.11.9、大学入試センター）をもとに作成

教科	グループ	出題科目	出題方法 (出題範囲、出題科目選択の方法等) 出題範囲について特記がない場合、出題科目名に含まれる 学習指導要領の科目の内容を総合した出題範囲とする。	試験時間 (配点)
国語		「国語」	「現代の国語」及び「言語文化」を出題範囲とし、近代以降の文章及び古典（古文、漢文）を出題する。 (注1) 「国語」の分野別の大問数及び配点は、近代以降の文章が3問110点、古典が2問90点（古文・漢文各45点）とする。	90分 (200点) (注1)
地理歴史 公民		「地理総合、地理探究」(b) 「歴史総合、日本史探究」(b) 「歴史総合、世界史探究」(b) 「公共、倫理」(b) 「公共、政治・経済」(b) 「地理総合、歴史総合、公共」(a) (a) 必修科目を組み合わせた出題科目 (b) 必修科目と選択科目を組み合わせた出題科目	・左記出題科目の6科目のうちから最大2科目を選択し、解答する。 ・(a)の『地理総合、歴史総合、公共』は、「地理総合」、「歴史総合」及び「公共」の3つを出題範囲とし、そのうち2つを選択解答する（配点は各50点）。 ・2科目を選択する場合、以下の組合せを選択することはできない。 (b)のうちから2科目を選択する場合 →「公共、倫理」と「公共、政治・経済」の組合せを選択することはできない。 (b)のうちから1科目及び(a)を選択する場合 →(b)については、(a)で選択解答するものと同一名称を含む科目を選択することはできない。(注2) ・受験する科目数は出願時に申し出ること。 (注2) 別スライドの「地歴公民の2出題科目を選択する際の注意点」を参照。	1科目選択60分 (100点) 2科目選択130分(注3) (うち解答時間120分) (200点)
数学	①	「数学Ⅰ」 「数学Ⅰ、数学A」	・左記出題科目の2科目のうちから1科目を選択し、解答する。 ・「数学A」については、図形の性質、場合の数と確率の2項目に対応した出題とし、全てを解答する。	70分 (100点)
	②	「数学Ⅱ、数学B、数学C」	・「数学B」及び「数学C」については、数列（数学B）、統計的な推測（数学B）、ベクトル（数学C）及び平面上の曲線と複素数平面（数学C）の4項目に対応した出題とし、4項目のうち3項目の内容の問題を選択解答する。	70分 (100点)
理科		「物理基礎、化学基礎、生物基礎、地学基礎」 「物理」 「化学」 「生物」 「地学」	・左記出題科目の5科目のうちから最大2科目を選択し、解答する。 ・「物理基礎、化学基礎、生物基礎、地学基礎」は、物理基礎、化学基礎、生物基礎及び地学基礎の4つを出題範囲とし、そのうち2つを選択解答する（配点は各50点）。 ・受験する科目数は出願時に申し出ること。	1科目選択60分 (100点) 2科目選択130分(注3) (うち解答時間120分) (200点)
外国語		「英語」 「ドイツ語」 「フランス語」 「中国語」 「韓国語」	・左記出題科目の5科目のうちから1科目を選択し、解答する。 ・「英語」は「英語コミュニケーションⅠ」、「英語コミュニケーションⅡ」及び「論理・表現Ⅰ」を出題範囲とし、【リーディング】及び【リスニング】を出題する。受験者は、原則としてその両方を受験する。その他の科目については、『英語』に準じる出題範囲とし、【筆記】を出題する。 ・科目選択に当たり、『ドイツ語』、『フランス語』、『中国語』及び『韓国語』の問題冊子の配付を希望する場合は、出願時に申し出ること。 (注4) 【リスニング】は、音声問題を用い30分間で解答を行うが、解答開始前に受験者に配付したICプレーヤーの作動確認・音量調節を受験者本人が行うために必要な時間を加えた時間を試験時間とする。なお、「英語」以外の外国語を受験した場合、【リスニング】を受験することはできない。	「英語」 【リーディング】 80分(100点) 【リスニング】 60分(注4) (うち解答時間30分) (100点) 「ドイツ語」「フランス語」「中国語」「韓国語」 【筆記】 80分(200点)
情報		「情報Ⅰ」		60分(100点)

(注3) 地理歴史及び公民並びに理科の試験時間において2科目を選択する場合は、解答順に第1解答科目及び第2解答科目に区分し各60分間で解答を行うが、第1解答科目及び第2解答科目の間に答案回収等を行うために必要な時間を加えた時間を試験時間とする。

地歴公民の2出題科目を選択する際の注意点

① 地歴科目はどの組合せでも 選択可能 →

「歴史総合、日本史探究」と「歴史総合、世界史探究」の2出題科目を選択できる(それぞれの「歴史総合」は固有の問題である=別の問題であるため)。

② 「地理総合、歴史総合、公共」 (2科目選択解答)ともう1出題 科目を選択する場合、**必履修3科目** をすべて解答する組合せに→

「地理総合、歴史総合、公共」で選択解答した2科目とは異なる名称の科目を含む出題科目を選択する。

③ 「公共」を含む2出題科目の 選択は不可 →

「公共、倫理」「公共、政治・経済」の2出題科目は選べない(それぞれの「公共」は共通の問題=同じ問題であるため)。

	地理総、 地理探	歴史総、 日本探	歴史総、 世界探	地理総・歴史総・公共(選択解答)			公共、 倫理	公共、 政治・経 済
				地理総 & 歴史総	地理総 & 公共	歴史総 & 公共		
地理総、地理探		○	○	×	×	○	○	○
歴史総、日本探	○		○	×	○	×	○	○
歴史総、世界探	○	○		×	○	×	○	○
地理総・歴史総・公共 (選択解答)	地理総 & 歴史総	×	×	×			○	○
	地理総 & 公共	×	○	○			×	×
	歴史総 & 公共	○	×	×			×	×
公共、倫理	○	○	○	○	×	×		×
公共、 政治・経済	○	○	○	○	×	×	×	

※ 赤字は必修科目を示す。

「実施大綱の予告」(2021年7月、文部科学省)をもとに作成

経過措置科目の出題方法等（予告）

←2022年度の高2生は要注意（既卒生になった場合のことです）

「令和7年度大学入学者選抜に係る大学入学共通テスト『経過措置科目』の出題方法等（予告）」（2022.11.9、大学入試センター）をもとに作成

教科	グループ	新教育課程による 出題科目	旧教育課程履修者等に対する経過措置		
			経過措置科目	出題方法 (出題範囲、出題科目選択の方法等)	試験時間 (配点)
国語		「国語」	なし	-	-
地理歴史 公民		「地理総合、地理探究」 「歴史総合、日本史探究」 「歴史総合、世界史探究」 「公共、倫理」 「公共、政治・経済」 「地理総合、歴史総合、公共」	「旧世界史A」 「旧世界史B」 「旧日本史A」 「旧日本史B」 「旧地理A」 「旧地理B」 「旧現代社会」 「旧倫理」 「旧政治・経済」 「旧倫理、旧政治・経済」	次のア、イのいずれかを選択し、解答する。 ア 新教育課程による出題科目の6科目のうちから最大2科目を選択し、解答する。選択できない組合せについては、別スライド「地歴公民の2出題科目を選択する際の注意点」を参照。 イ 経過措置科目の10科目のうちから最大2科目を選択し、解答する。ただし、同一名称を含む科目の組合せで2科目を選択することはできない。(注1) 新教育課程による出題科目と経過措置科目を組み合わせで選択することはできない。 なお、ア、イのいずれを選択するか及び受験する科目数については出願時に申し出ること。	1科目選択60分 (100点) 2科目選択130分 (うち解答時間120分) (200点)
数学	①	「数学Ⅰ」 「数学Ⅰ、数学A」	「旧数学Ⅰ」 「旧数学Ⅰ・旧数学A」	新教育課程による出題科目と経過措置科目を合わせた4科目のうちから1科目を選択し、解答する。	70分 (100点)
	②	「数学Ⅱ、数学B、数学C」	「旧数学Ⅱ」 「旧数学Ⅱ・旧数学B」 「旧簿記・会計」 「旧情報関係基礎」	新教育課程による出題科目と経過措置科目を合わせた5科目のうちから1科目を選択し、解答する。 なお、科目選択に当たり、『旧簿記・会計』及び『旧情報関係基礎』の問題冊子の配付を希望する場合は、出願時に申し出ること。	70分 (100点)(注2)
理科		「物理基礎、化学基礎、生物基礎、地学基礎」 「物理」、「化学」、「生物」、「地学」	なし	新教育課程による出題科目において、(新教育課程および現行の教育課程の間で、指導要領や教科書において扱いが異なる内容に関しては)必要に応じて、旧教育課程履修者等が選択可能な問題を出題する場合がある。	
外国語		「英語」、「ドイツ語」、「フランス語」、 「中国語」、「韓国語」	なし	-	-
情報		「情報Ⅰ」	「旧情報(仮)」	新教育課程による出題科目と経過措置科目を合わせた2科目のうちから1科目を選択し、解答する。 『旧情報(仮)』の出題範囲は、平成21年告示学習指導要領の「社会と情報」及び「情報の科学」の内容とする。なお、高等学校等において「社会と情報」、「情報の科学」のいずれの科目を履修していても不利益が生じないよう、両科目の共通部分に対応した必答問題に加え、「社会と情報」に対応した問題及び「情報の科学」に対応した問題を出題し、選択解答させる。	60分(100点)

(注1) 「同一名称を含む科目の組合せ」とは、『旧世界史A』と『旧世界史B』、『旧日本史A』と『旧日本史B』、『旧地理A』と『旧地理B』、『旧倫理』と『旧倫理、旧政治・経済』及び『旧政治・経済』と『旧倫理、旧政治・経済』の組合せをいう。

(注2) 令和6年度大学入学者選抜に係る大学入学共通テストにおいては、数学②の試験時間は60分であるが、令和7年度大学入学者選抜に係る大学入学共通テストにおいては、数学②の試験時間は経過措置科目も含めて70分である。

「情報」の経過措置関係

←2023年度高3生への周知と説明を(既卒生になった場合のこと)

[③221121_R7説明用資料\(HP掲載用\).pdf \(dnc.ac.jp\)](#) (2022.11.21、大学入試センター)

令和7年度試験で経過措置科目を受験する可能性のある生徒に対して、これまで出題されていない『旧情報(仮)』が出題されることを周知いただくこと。

- ・ その際、各学校で開講している科目が、「社会と情報」「情報の科学」のどちらであるのかが、生徒にとって明確になるように伝えていただきたいこと。

*選択問題は(どの科目を履修していたかにかかわらず)試験時間中に自由に選ぶことが可能です。

- ・ 特に、専門学科の科目や学校設定科目(教育課程の特例を含む)によって上記2科目を代替している場合には、それらの科目と「社会と情報」「情報の科学」の内容の対応関係について、十分なお説明を頂きたいこと。

*大学入試センターや大学等では、受験者から質問を頂いても回答ができません。

得点調整

赤枠で囲っている科目が2025共通テストの得点調整対象科目である。なお、得点調整を実施する場合の条件や方法については、別途定める。また、現行の共通テストでは「倫理、政治・経済」を得点調整の対象に含めていないが、2025共通テストにおいては「旧倫理、旧政治・経済」を得点調整の対象科目とする。

教科	現行の試験 (青枠で囲っている科目が得点調整対象科目)	令和7年度試験	
		経過措置科目	新教育課程科目
国語	「国語」	—	「国語」
地理歴史	「世界史B」 「日本史B」 「地理B」	「旧世界史B」 「旧日本史B」 「旧地理B」	「地理総合、地理探究」 「歴史総合、日本史探究」 「歴史総合、世界史探究」
	「世界史A」 「日本史A」 「地理A」	「旧世界史A」 「旧日本史A」 「旧地理A」	「地理総合、歴史総合、公共」
公民	「現代社会」 「倫理」 「政治・経済」	「旧現代社会」 「旧倫理」 「旧政治・経済」 「旧倫理、旧政治・経済」	「公共、倫理」 「公共、政治・経済」
	「倫理、政治・経済」		「地理総合、歴史総合、公共」
数学①	「数学Ⅰ」 「数学Ⅰ・数学A」	「旧数学Ⅰ」 「旧数学Ⅰ・旧数学A」	「数学Ⅰ」 「数学Ⅰ、数学A」
	「数学Ⅱ」 「数学Ⅱ・数学B」 「簿記・会計」 「情報関係基礎」	「旧数学Ⅱ」 「旧数学Ⅱ・旧数学B」 「旧簿記・会計」 「旧情報関係基礎」	「数学Ⅱ、数学B、数学C」
理科	「物理基礎」「化学基礎」「生物基礎」「地学基礎」		「物理基礎、化学基礎、生物基礎、地学基礎」
	「物理」 「化学」 「生物」 「地学」		「物理」 「化学」 「生物」 「地学」
外国語	「英語」、「ドイツ語」、「フランス語」、「中国語」、「韓国語」		「英語」、「ドイツ語」、「フランス語」、「中国語」、「韓国語」
情報		「旧情報(仮)」	「情報Ⅰ」

出題教科・科目の問題作成方針に関する検討の方向性

[令和7年度試験の問題作成の方向性、試作問題等](#) | [大学入試センター \(dnc.ac.jp\)](#) (2022.11.9、大学入試センター)

【国語】

これまでの問題作成方針で示してきたことを引き続き重視しつつ、**新学習指導要領「現代の国語」、「言語文化」それぞれで育成する資質・能力を、試験問題全体を通じて評価**する。

具体的には、新たな大問を追加し、より多様な文章を扱うことで、言葉による記録、要約、説明、論述、話し合い等の言語活動を重視して、目的や場面に応じて必要な情報と情報の関係を的確に理解する力や、様々な文章の内容を把握したり、適切に解釈したりする力等も含め多様な資質・能力を評価できるようにする。

また、各大問では、引き続き、近代以降の文章（論理的な文章や実用的な文章、文学的な文章）、古典（古文、漢文）を題材として、試験時間（90分）との関係に留意しつつ、それぞれの題材の意義や特質を一層生かした出題となるよう工夫する。

〈参考〉 令和6年度大学入学者選抜に係る大学入学共通テスト問題作成方針【国語】

言語を手掛かりとしながら、**文章から得られた情報を多面的・多角的な視点から解釈したり、目的や場面等に応じた文章を書いたりする力**などを求める。近代以降の文章（論理的な文章、文学的な文章、実用的な文章）、古典（古文、漢文）といった題材を対象とし、**言語活動の過程を重視**する。問題の作成に当たっては、大問ごとに一つの題材で問題を作成するだけでなく、**異なる種類や分野の文章などを組み合わせた、複数の題材による問題**を含めて検討する。

出題教科・科目の問題作成方針に関する検討の方向性

[令和7年度試験の問題作成の方向性、試作問題等](#) | [大学入試センター \(dnc.ac.jp\)](#) (2022.11.9、大学入試センター)

【地理総合、歴史総合、公共】

- 『地理総合、歴史総合、公共』では、地理歴史科、公民科の必履修科目（学科等を問わず全ての生徒が卒業までに履修する科目）である3科目に対応した三つを出題範囲として出題する（受験者は、そのうち二つを選択解答する。）。
- **新学習指導要領に示されている、それぞれの科目で育成することとされている資質・能力を一層重視したものとなるよう検討する。**

【地理（地理総合、地理探究）】

- 『地理総合、地理探究』では、必履修科目である「地理総合」と、その履修後に学習する選択科目である「地理探究」を総合した範囲から出題する。
- **新学習指導要領に示されている「地理総合」及び「地理探究」で育成することとされている資質・能力を一層重視したものとなるよう検討する。**

【歴史（歴史総合、日本史探究、世界史探究）】

- 『歴史総合、日本史探究』では、必履修科目である「歴史総合」と、その履修後に学習する選択科目である「日本史探究」を総合した範囲から出題する。
- 『歴史総合、世界史探究』では、必履修科目である「歴史総合」と、その履修後に学習する選択科目である「世界史探究」を総合した範囲から出題する。
- **新学習指導要領に示されている「歴史総合」、「日本史探究」及び「世界史探究」で育成することとされている資質・能力を一層重視したものとなるよう検討する。**

出題教科・科目の問題作成方針に関する検討の方向性

[令和7年度試験の問題作成の方向性、試作問題等 | 大学入試センター \(dnc.ac.jp\)](#) (2022.11.9、大学入試センター)

〈参考〉 令和6年度大学入学者選抜に係る大学入学共通テスト問題作成方針

【地理】

地理に関わる事象を多面的・多角的に考察する過程を重視する。地理的な見方や考え方を働かせて、地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり、地理的な諸課題の解決に向けて構想したりする力を求める。問題の作成に当たっては、思考の過程に重きを置きながら、地域を様々なスケールから捉える問題や、地理的な諸事象に対して知識を基に推論したり、資料を基に検証したりする問題、系統地理と地誌の両分野を関連付けた問題などを含めて検討する。

【歴史（日本史、世界史）】

歴史に関わる事象を多面的・多角的に考察する過程を重視する。用語などを含めた個別の事実等に関する知識のみならず、歴史的事象の意味や意義、特色や相互の関連等について、総合的に考察する力を求める。問題の作成に当たっては、事象に関する深い理解に基づいて、例えば、教科書等で扱われていない初見の資料であっても、そこから得られる情報と授業で学んだ知識を関連付ける問題、仮説を立て、資料に基づいて根拠を示したり、検証したりする問題や、歴史の展開を考察したり、時代や地域を超えて特定のテーマについて考察したりする問題などを含めて検討する。

出題教科・科目の問題作成方針に関する検討の方向性

[令和7年度試験の問題作成の方向性、試作問題等 | 大学入試センター \(dnc.ac.jp\)](#) (2022.11.9、大学入試センター)

【公共、倫理】

- 『公共、倫理』では、必修科目である「公共」と、その履修後に学習する選択科目である「倫理」を総合した範囲から出題する。
- 新学習指導要領に示されている「公共」及び「倫理」で育成することとされている資質・能力を一層重視したものとなるよう検討する。

【公共、政治・経済】

- 『公共、政治・経済』では、必修科目である「公共」と、その履修後に学習する選択科目である「政治・経済」を総合した範囲から出題する。
- 新学習指導要領に示されている「公共」及び「政治・経済」で育成することとされている資質・能力を一層重視したものとなるよう検討する。

出題教科・科目の問題作成方針に関する検討の方向性

[令和7年度試験の問題作成の方向性、試作問題等](#) | [大学入試センター \(dnc.ac.jp\)](#) (2022.11.9、大学入試センター)

〈参考〉 令和6年度大学入学者選抜に係る大学入学共通テスト問題作成方針

【現代社会】

現代社会の課題や人間としての在り方生き方等について多面的・多角的に考察する過程を重視する。文章や資料を的確に読み解きながら基礎的・基本的な概念や理論、考え方等を活用して考察する力を求める。問題の作成に当たっては、図や表など、多様な資料を用いて、データに基づいて考察し判断する問題などを含めて検討する。

【倫理】

人間としての在り方生き方に関わる倫理的諸課題について多面的・多角的に考察する過程を重視する。文章や資料を読み解きながら、先哲の基本的な考え方等を手掛かりとして考察する力を求める。問題の作成に当たっては、倫理的諸課題について、倫理的な見方や考え方を働かせて、思考したり、批判的に吟味したりする問題や、原典資料等、多様な資料を手掛かりとして様々な立場から考察する問題などを含めて検討する。

【政治・経済】

現代における政治、経済、国際関係等について多面的・多角的に考察する過程を重視する。現代における政治、経済、国際関係等の客観的な理解を基礎として、文章や資料を的確に読み解きながら、政治や経済の基本的な概念や理論等を活用して考察する力を求める。問題の作成に当たっては、各種統計など、多様な資料を用いて、様々な立場から考察する問題などを含めて検討する。

出題教科・科目の問題作成方針に関する検討の方向性

[令和7年度試験の問題作成の方向性、試作問題等](#) | [大学入試センター \(dnc.ac.jp\)](#) (2022.11.9、大学入試センター)

【数学】

- 『数学Ⅰ、数学A』及び『数学Ⅰ』については、選択問題を含まず、全てを解答することとする。
- 『数学Ⅱ、数学B、数学C』については、「数学Ⅱ」は選択問題を含まず、全てを解答することとし、「数学B」及び「数学C」については、4項目のうち3項目の内容の問題を選択解答することとする。従来の『数学Ⅱ・数学B』から出題範囲が増えることに伴い、各大問の分量については、内容と試験時間(70分)を踏まえて調整する。
- これまでの問題作成方針で示されている、「数学的な問題解決の過程」を引き続き重視しつつ、**新学習指導要領に示されている、数学の各科目で育成することとされている資質・能力を一層重視したものとなるよう検討**する。

〈参考〉 令和6年度大学入学者選抜に係る大学入学共通テスト問題作成方針

【数学】

数学的な問題解決の過程を重視する。事象の数量等に着目して数学的な問題を見いだすこと、**構想・見通しを立てること、目的に応じて数・式、図、表、グラフなどを活用し、一定の手順に従って数学的に処理すること、及び解決過程を振り返り、得られた結果を意味付けたり、活用したりすることなどを求める。**また、問題の作成に当たっては、**日常の事象や、数学のよさを実感できる題材、教科書等では扱われていない数学の定理等**を既知の知識等を活用しながら導くことのできるような題材等を含めて検討する。

出題教科・科目の問題作成方針に関する検討の方向性

[令和7年度試験の問題作成の方向性、試作問題等](#) | [大学入試センター \(dnc.ac.jp\)](#) (2022.11.9、大学入試センター)

【理科 物理基礎、化学基礎、生物基礎、地学基礎】

○ これまでの問題作成方針で示されている、「日常生活や社会との関連を考慮し、科学的な事物・現象に関する基本的な概念や原理・法則などの理解と、それらを活用して科学的に探究を進める過程についての理解など」を引き続き重視しつつ、**新学習指導要領**に示されている、各科目で育成することとされている資質・能力を一層重視したものとなるよう検討する。

【理科 物理、化学、生物、地学】

○ これまでの問題作成方針で示されている、「科学の基本的な概念や原理・法則に関する深い理解を基に、基礎を付した科目との関連を考慮しながら、自然の事物・現象の中から本質的な情報を見いだしたり、課題の解決に向けて主体的に考察・推論したりするなど、科学的に探究する過程」を引き続き重視しつつ、**新学習指導要領**に示されている、各科目で育成することとされている資質・能力を一層重視したものとなるよう検討する。

〈参考〉 令和6年度大学入学者選抜に係る大学入学共通テスト問題作成方針

【理科 物理基礎、化学基礎、生物基礎、地学基礎】

日常生活や社会との関連を考慮し、科学的な事物・現象に関する**基本的な概念や原理・法則などの理解**と、それらを活用して科学的に探究を進める過程についての理解などを重視する。問題の作成に当たっては、**身近な課題等について科学的に探究する問題**や、得られたデータを整理する過程などにおいて**数学的な手法を用いる問題**などを含めて検討する。

【理科 物理、化学、生物、地学】

科学の基本的な概念や原理・法則に関する**深い理解**を基に、**基礎を付した科目との関連**を考慮しながら、自然の事物・現象の中から本質的な情報を見いだしたり、課題の解決に向けて主体的に考察・推論したりするなど、**科学的に探究する過程**を重視する。問題の作成に当たっては、受験者にとって**既知ではないものも含めた資料等**に示された事物・現象を分析的・総合的に考察する力を問う問題や、観察・実験・調査の結果などを**数学的な手法を活用して分析し解釈する力を問う問題**などとともに、科学的な事物・現象に係る**基本的な概念や原理・法則などの理解を問う問題**を含めて検討する。

なお、大学入試センター試験で出題されてきた理科の選択問題については、設定しないこととする。

出題教科・科目の問題作成方針に関する検討の方向性

[令和7年度試験の問題作成の方向性、試作問題等](#) | [大学入試センター \(dnc.ac.jp\)](#) (2022.11.9、大学入試センター)

【英語】

○ 高大接続改革の中で、学習指導要領の趣旨を踏まえ、各大学の個別選抜や総合型選抜等を含む大学入学者選抜全体において、「聞くこと」「読むこと」「話すこと」「書くこと」の総合的な英語力を評価することが求められている。共通テスト「外国語（英語）」は、「リーディング」形式と「リスニング」形式の試験問題を通して、文字や音声による試験の特徴を生かしながら、以下のように可能な限り総合的な英語力を評価する。

・コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解する力を引き続き重視する。

・併せて、高等学校において、英語を「聞くこと」・「読むこと」・「話すこと[やり取り]、[発表]」・「書くこと」を統合した言語活動の充実が図られることを踏まえ、情報や自分の考えを適切に表現したり伝え合ったりするために、理解した情報や考えを整理したり、何をどのように取り上げるかなどを判断したりする力を重視する。

・また、コミュニケーションを支える基盤となる音声や語彙、表現、文法等に関する知識や技能についても、上記の力を問うことを通して引き続き評価する。

○ なお、「リーディング」、「リスニング」ともに、共通テストの問題のレベルは、出題範囲としている科目（「英語コミュニケーションⅠ」、「英語コミュニケーションⅡ」及び「論理・表現Ⅰ」）の目標及び内容（言語活動の例、言語の使用場面や働きの例など）等に対応したものとする。その際、多様な受験者の学力を適切に識別できるよう、引き続き、CEFR の概ね A1～B1 レベルを目安として問題のテキスト、使用する語彙、タスクなどを設定し、問題を作成することとする。

出題教科・科目の問題作成方針に関する検討の方向性

[令和7年度試験の問題作成の方向性、試作問題等 | 大学入試センター \(dnc.ac.jp\)](#) (2022.11.9、大学入試センター)

〈参考〉 令和6年度大学入学者選抜に係る大学入学共通テスト問題作成方針

【英語】

○ 高等学校学習指導要領では、**外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識**を、実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けるようにすることを目標としていることを踏まえて、4技能のうち「読むこと」「聞くこと」の中でこれらの知識が活用できるかを評価する。したがって、**発音、アクセント、語句整序などを単独で問う問題は作成しないこととする。**

○ 「リーディング」「リスニング」ともに、ヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR)を参考に、各CEFRレベルにふさわしいテキスト作成と設問設定を行うことで、A1からB1レベルに相当する問題を作成する。また、**実際のコミュニケーションを想定した明確な目的や場面、状況の設定を重視**する。

○ 「リーディング」については、**様々なテキストから概要や要点を把握する力や必要とする情報を読み取る力**等を問うことをねらいとする。表記については、現在国際的に広く使用されているアメリカ英語に加えて、**場面設定によってイギリス英語を使用**することもある。

○ 「リスニング」については、**生徒の身近な暮らしや社会での暮らしに関わる内容**について、**概要や要点を把握する力や必要とする情報を聞き取る力**等を問うことをねらいとする。**音声については、多様な話者による現代の標準的な英語を使用**する。読み上げ回数については、英語の試行調査の結果や資格・検定試験におけるリスニング試験の一般的な在り方を踏まえ、問題の数の充実を図ることによりテストの信頼性が更に向上することを目的として、**1回読みを含める**。十分な読み上げ時間を確保し、**重要な情報は形を変えて複数回言及**するなど、**自然なコミュニケーションに近い英語の問題**を含めて検討する。全ての問題を1回読みにする可能性についても今後検証しつつ、**当面は1回読みと2回読みの両方の問題を含む構成**で実施することとする。

○ グローバル人材の育成を目指した英語教育改革の方向性の中で高等学校学習指導要領に示す4技能のバランスの良い育成が求められていることを踏まえ、**「リーディング」と「リスニング」の配点を均等**とする。ただし、各大学の入学者選抜において、具体的にどの技能にどの程度の比重を置くかについては、4技能を総合的に評価するよう努めるという「大学入学共通テスト実施方針」(平成29年7月)を踏まえた各大学の判断となる。

2025共通テストのおもなポイント

－弊社まとめ－

【問題作成方針の検討の方向性】

- 高大接続改革の趣旨と、これまでの共通テストの実施状況を踏まえて検討
- 従来の問題作成の基本的な考え方を重視し、かつ、その趣旨がより明確になるような出題
- 新学習指導要領で育成することとされている資質・能力を一層重視したものとなるような出題
- 多様な受験者が十分に力を発揮できるよう問題の構成や分量等に配慮しながら、引き続き、知識の質や、知識・技能を活用する思考力・判断力・表現力等を問う問題の工夫を重視

【各教科の実施方針（予告）】

国語

- ・言語活動を重視し、多様な資質・能力を問うため大問を新たに1つ追加※。
- ・試験時間は90分（10分増）、分野別の配点は近代以降の文章110点、古典90点（古文45、漢文45）。
- ※ 試作問題では、新たな大問の例として、複数の文章や図、グラフを基に、レポートの内容や構成を考える設定の問題を2例紹介。

数学：数学②が「数学Ⅱ、数学B、数学C」になり、試験時間が10分増となることで、数学①・②ともに試験時間が70分となる。

英語：「リーディング」「リスニング」形式を通して、「聞く」「読む」「話す」「書く」を統合した言語活動を通して培う総合的な英語力を測ることを重視。

地歴公民：必履修科目と、それを学んだ後に履修する選択科目を組み合わせ、6つの出題科目を出題。受験者は6つの出題科目のうちから最大2つの出題科目を選択し、解答する。ただし、2つの出題科目を選択する場合、選択不可の組合せがある。

理科

- ・従来の「理科①」、「理科②」を一つの試験時間帯の中で「理科」として実施する。
- ・経過措置科目は設定しないが、必要に応じて、旧教育課程履修者等が選択可能な選択問題を出題する場合がある。

情報

- ・「情報」が出題教科に追加（試験時間は60分、配点は100点）。
- ・「情報Ⅰ」と「旧情報（仮）」の間では、いずれかの受験者数が1万人に満たない場合も、得点調整の対象とする。

【経過措置について】

- ・2025共通テストは、旧教育課程履修者等（既卒者など）が選択できる、「経過措置問題」を出題。（新教育課程履修者が経過措置問題を選択することは不可。）
- ・地理歴史、公民のみ、経過措置問題を解答するか、通常の科目を解答するか、出願時に申請が必要。

ステップ学習で入試に勝つ！

「進研WINSTEP」シリーズは、
共通テストを見据えたステップ学習で、
受験に必要な確かな学力を育成する問題集です。



見本請求・ご注文は
ラーンスWEBサイトへ





本社：〒700-0807 岡山市北区南方3-7-17

本資料の内容を、無断転載することを禁止します。
各種コンテンツに転載する場合は事前に弊社までご連絡ください。
本資料に関するお問い合わせや、
教材のご注文・見本請求などは、下記窓口までお願いいたします。

ラーンズ お客様センター 0120-548155 通話料無料

受付時間/月～金 9:00～17:00(祝日、年末・年始を除く)

